

ソメイヨシノのタネはないの？

ソメイヨシノ【バラ科サクラ亜科サクラ属】

近年、季節の移り変わりが早く、今年は4月を待たずに、桜の開花は3/14、満開は3/22日でした。昨年の開花と満開が3/20と2/27、一昨年は2/24と3/31でしたので、3年連続で早くなっています。単純に温暖化の影響と考えるのは早計かもしれませんが、桜の花びら舞う入学式は、もう昔の話になりそうです。東京都の開花と言っても、都心部や山間部では寒暖差があり、一週間ほどのズレはあります。もちろん桜の種類によっても咲く時期は違い、伊豆半島の河津桜などは2月中旬には満開となります。



【600℃の法則（開花日予想）】

一般的に桜の開花情報は、ソメイヨシノという品種についての情報で、各地域の気象台がその地区の標準木（観測に使う木）を決めておき、その状況で判断をしているようです。東京都は靖国神社の境内にあり、5~6個の蕾が開いたら、開花宣言としているようです。ソメイヨシノの開花日には600℃の法則というのがあるそうです。2/1以降の各日の最高気温をたしていき、600℃に達すると開花日になるという法則です。



【ソメイヨシノは、クローン桜】

桜と言えば「ソメイヨシノ」ですが、この品種は江戸時代に染井（現在の豊島区駒込）にあった植木屋さんが、吉野桜という名称で売り出した栽培品種で、たった一本の原木から「接ぎ木」という当時の最先端バイオ技術を使って大量生産されたもので、すべての木が遺伝的に同じだそうです。つまり日本中のソメイヨシノは、基本的にすべてクローンということになります。

※接ぎ木：親木から切った枝を台木（根がある別の桜の木）に繋ぎ合わせて育てる方法。

【母はエドヒガン、父はオオシマザクラ】

原木は日本のどこにあったのか？ 自然交配なのか人工交配なのか？など不明ですが、DNA解析によると、552万年前に異なる種に分かれた「エドヒガンの雌しべ」に「オオシマザクラの花粉（オオシマザクラとヤマザクラの雑種の花粉という説もある）」が受粉して、百数十年前に交雑して生まれたのが、ソメイヨシノだと推測されるそうです。淡紅色で花が咲いた後に葉がでるエドヒガンの艶やかさと、大振りで大振り先が割れた迫力ある5枚の花弁がオオシマザクラのそれぞれの性質が合わさって、美しく見ごたえのある品種になったそうです。

※日本の桜は100種類くらいあるそうですが、野生種はオオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガン、ミヤマザクラなど10種類ほど（学者で見解が異なる）だそうです。

【ソメイヨシノの「種」はない？】 ⇒ できるけどできない??

花が終わった後に果実を付けたソメイヨシノをあまり見かけませんが種はできないのでしょうか？ 答えは「種はできるが、ソメイヨシノではない」です。桜の仲間は「自家受粉では種ができません。」自分以外の木の花粉でないと果実ができません。接ぎ木で増えたソメイヨシノはすべてクローン（同じ遺伝子）なので、どの木から花粉をもらっても、自分の花粉と同じであり種子ができません。違う種類の桜の花粉が受粉すると果実ができることはありますが、できた種子は交雑種でソメイヨシノではありません。

野生種の子実など個体により遺伝子が異なるので種子ができて増えることができます。

ソメイヨシノの接ぎ木の台木には、種から育てたヤマザクラやオオシマザクラの苗木を利用するそうです。